



人と人の触れ合いが希薄になっているとか、コミュニティの再生が求められているという話をよく耳にするが、これらの話は我々まちづくりに携わる者にとって、昨今ますます重要なテーマになってきていると感じる。アメリカの都市社会学者レイ・オルデンバーグは、近年のアメリカのコミュニティの再生を目指す上で、家庭とも職場とも違った、人々が気軽に集えて「居心地の良い場所」である「サードプレイス（第三の場所）」の再生が必要であると考えた。近年の都市計画が、車中心の社会を推し進め、人々から歩いて気軽に立ち寄れるたまり場のような「居心地の良い場所」を破壊し、人々の生活を家庭と職場の往復に終始するようなものに変えてしまった結果、コミュニティが育たない都市ができあがってしまったというのである。

さて、オルデンバーグが彼の著書の中で「サードプレイス」の再生を唱えてから30年ほど経つが、この考え方を裏付けるかのように、我々はまちづくりの中で「サードプレイス」の要素をもった取組みに会う機会に恵まれた。今もって「サードプレイス」の創造が、コミュニティの再生において有効な手法になりえると感じている。

今回の特集では、まず我々が取り組むまちづくり業務の中の、再開発事業の現場の中から知見を得たコミュニティやサードプレイスの重要性について、コミュニティの喪失がもたらす影響に触れつつ述べることにする。そして次に、「サードプレイス」と呼べるにふさわしいような取り組みの事例として、地域に根差した形で住民が気軽に集まって近所の人達と触れ合える場づくりを目指している「コミュニティカフェ」や、市民が気軽に集まれる居心地の良い場所づくりを公共施設において実現している事例を紹介していきたい。そこでは、単に人々の触れ合いの場やコミュニティの場が生まれているだけにとどまらず、市民と行政の協働を促していくなど波及効果が生まれており、その点は着目すべきところである。

まちづくりの観点から、「サードプレイス」の創造がコミュニティの再生をはじめ様々なものをもたらしてくれると考えている。



目次

特集

- 1 コミュニティ再生とサードプレイス
- 2 再開発におけるコミュニティの再生
- 3 コミュニティカフェによる居場所づくり
- 4 居心地のよい公共施設に向けて

SPECIAL REPORT

まちの魅力

- 5 「水辺の魅力」
レゴランド&クルーズ名古屋
- 7 「歴史の魅力」
江戸から昭和へタイムスリップ
- 8 「路上の魅力」
マンホール蓋

視察レポート

- 9 「イギリス」
アーバンビレッジ&団地再生
- 11 「中欧・クロアチア&スロヴェニア」
紛争からの復興都市

所員紹介／業務内容
スペーシアの歩み／情報発信

社外報 ラバダブ

RUB-A-DUB

January 2018 Vol. 21

発行：(株)都市研究所スペーシア